

彙報

●京都帝國大學文學部史學科昭和七年度

卒業論文題目

國史專攻

近世の神道思想と國民思潮

藤原後期の宗教生活

近世思想史上に於ける水戸の學問

靈水の傳説について

近世庶民教育の史的研究

戰國大名の地方統治

近世初頭に於ける精神的轉向に就いて

鎌倉時代に於ける貨幣の使用及び流通の發達に就いて

中世末期に於ける庶民擡頭の一様式

古代文學と時代精神

王朝時代に於ける莊園の發展過程

徳川時代前期に於ける町人精神の發展

我國氏族制度社會の概観とその崩壞過程

中世末期の武士生活

日本近世に於ける西洋文化に就いて

藤原末期の思想史的研究

特に藝術思想を中心として

東洋史專攻

清朝の皇位繼承法に就いて

兩稅制度の一考察

薛延陁のオルコン占據に就いて

高麗朝の滅亡に就いて

唐代の漕運

北方と甘肅地方との交通線

一條鞭法に就いて

元代の喇嘛教

特に其の元室との關係を中心として

清太宗朝に於ける清鮮關係

主として丙子役を中心として

元代海運に就いて

唐宋翰林學士考

西洋史專攻

Bosnia, Herzegovina 問題を中心とせる露奧の抗争に就いて

南印に於ける英佛鬭争に就いて

歐米の日本進出と幕末貿易の意義

十九世紀初頭に於ける普魯西の革新運動

山本正信

今西春秋

小野勝年

小野川秀美

楠正

外山軍治

原山銳一

堀井一雄

堀内修

三田村泰助

森一郎

山本隆義

太田實

澤田徳兵衛

杉本克己

中村勤

地理學專攻

島原半島の地誌的研究

岩尾常善

伊旛沼の地理學的考察

川上健三

廣島市の發達と其人文現象の地域的考察

野澤浩

生産現象を中心としたる紀北の經濟地理構成の一考察

松井武敏

愛鷹兩麓志

室賀信夫

考古學專攻

伊勢灣周邊に於ける彌生式文化

齋藤忠夫

出土遺物を中心として觀たる近畿の前方後圓墳

中山徹太

西洋史讀書會

例會 昨年十二月十五日(土)午後七時より樂友會館第一號室

にて開催、左の讀書紹介の後散會

1. v. Dungen: Adelserschaft im Mittelalter.

二回生 細田 鼎君

1. B. Heil: Die deutschen Städte und Bürger im Mittelalter.

二回生 山内 嘉夫君

例會 一月二十七日(金)午後六時半より樂友會館第六號室にて開催、左の研究發表ありて十一時過散會

1. Luxenburg: 購買問題とナポレオン三世の外交

二回生 清水 喜一君

1. 英國産業革命について

二回生 中島 亘君

一、中世經濟史

二回生 荒田 新吾君

讀書會

故三浦博士記念讀書會大會 昭和七年十二月十日(土)樂友會館講堂に於て開催。午後一時二十分壇上正面に石橋和訓氏の筆になる故博士の肖像を掲げ、御遺族を招じ追悼式を開く。まづ中村助教の挨拶があり、次いで、受業生總代時野谷勝君追悼文を朗讀し、最後に、西田教授の追悼の辭があつた。式後直に公開講演會に移る。尙當日、別室(第一號室)には、故博士の遺書、遺品を展覽した。午後五時、晝之部の講演を終り、階下休憩室にて記念撮影を行ひ、五時半より會員一同晚餐を共にする。

席上、先輩栗野秀穂氏の讀書會創立時代の回顧談あり、次いで肥後和男氏の東京學界の紹介あり、午後七時講演再開夜之部に入る。

○講演晝之部

一、室町時代の民衆に關する一考察 文學士 日置彌三郎君

一、名田の發生に就て 文學士 清水 三男君

一、日本史學史の方法 文學士 武藤 誠君

一、應仁文明の亂管見 文學士 寺尾 宏二君

一、明治佛教の展開 文學士 徳重 淺吉君

一、戰國諸侯と禪 文學士 柏倉 亮吉君

一、宇治上代登窯遺址調査報告 文學士 柴田 實君

夜之部

一、時 考

一、繪所と土佐派

一、徂徠と西鶴

一、日鮮降臨神話の一齣

一、足利幕府に於ける人文主義的傾向

一、生殖器崇拜説を排す

一、生殖器崇拜説を排す

一、生殖器崇拜説を排す

一、生殖器崇拜説を排す

○研究發表

一、座の一例

一、明治初年の教育

一、北海道屯田兵村の諸問題

○談 話

一、日本住宅建築に就いて

一、尚、原典作氏のオリンピック隨行談があつた。

一、開會 三月十五日(水)午後六時より樂友會館第一號室に於て

一、下三十一名。左の研究發表及び談話あり、休暇申なるにもか、

一、はらず盛會裡に午後十時三十分散會。

○研究發表

一、幕末の神道思想

一、水戸學派の神道思想

文學士 魚澄惣五郎君

源 豊宗君

文學士 有働 賢造君

文學士 三品 彰英君

文學士 藤 直幹君

文學博士 喜田 貞吉君

文學博士 喜田 貞吉君

文學博士 喜田 貞吉君

文學士 澤井 浩三氏

三回生 時野谷 勝君

三回生 牧野信之助氏

二回生 東伏見邦英君

三回生 安齋 二郎君

三回生 樫村 壽一君

三回生 樫村 壽一君

三回生 樫村 壽一君

三回生 樫村 壽一君

三回生 樫村 壽一君

三回生 樫村 壽一君

三回生 樫村 壽一君

三回生 樫村 壽一君

三回生 樫村 壽一君

一、「統道眞傳」を讀む

一、詩による時代展望

○談 話

一、攘夷論の發生消滅に就いて

一、尚、牧教授、藤講師、中村助教授、西田教授より夫々近年度卒業論文に就いての批評及其に對する三田生諸君の答辯、希望があつた。

一、尚、牧教授、藤講師、中村助教授、西田教授より夫々近年度卒業論文に就いての批評及其に對する三田生諸君の答辯、希望があつた。

一、尚、牧教授、藤講師、中村助教授、西田教授より夫々近年度卒業論文に就いての批評及其に對する三田生諸君の答辯、希望があつた。

一、尚、牧教授、藤講師、中村助教授、西田教授より夫々近年度卒業論文に就いての批評及其に對する三田生諸君の答辯、希望があつた。

●民俗學會

○十二月例會

一、日時 十二月十六日(金)午後七時

一、場所 學生集會所

一、講演

一、母系社會に於ける父の一觀念

一、伊勢神宮の御田植に就て

一、蒙古旅行談(十六ミリ映寫)

○一月例會

一、日時 一月二十四日(火)午後七時

一、場所 學生集會所

一、講演

一、熊野の神事お燈祭と民俗

一、本邦古代葬制に關する二三の考

三回生 木村 武夫君

三回生 住友吉左衛門君

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

文學士 吉田 三郎氏

〇二月例會

一、日時 二月十六日(水)午後七時

一、場所 學生集會所

一、講演

母權時代の神話

木村 武夫氏

春日神社の祭器に就て

森口奈良吉氏

〇二月堂御水取見學

中村助教の御配慮により三月十三日夜奈良二月堂に、前日の御水取につゞいて行はれてゐる諸種の行事を見學した。就中最初の大松明、走の行法、達陀の妙法等は荒つばい行法たるに驚かされた。行法を終へたのは午前一時すぎであつた。

●寄贈交換圖書雜誌目錄

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| 明治以後に於ける歴史學の發達       | 歷史教育研究會     |
| 史學雜誌 四三の一、二、四四の一、二、三 | 史學會         |
| 歷史地理 六〇の六、六一の一、二、三   | 日本歷史地理學會    |
| 西洋史研究 二              | 東北帝大西洋史研究會  |
| 信 濃 一二、二の一、二、三       | 同郷土研究會      |
| イスラム文化 一             | イスラム文化研究所   |
| 宗學研究 五               | 大谷派本願寺宗學研究會 |
| 史學研究 四の二             | 廣島史學研究會     |
| 史友會々員名簿              | 史友會         |
| 考古學雜誌 二二の二、二三の一、二    | 考古學會        |
| 龍谷史壇 一一              | 龍谷大學        |
| 史迹と美術 二六、二七、二八       | 史迹美術同攻會     |
| 名古屋温故會報告 一六          | 名古屋温故會      |
| 哲學研究 一八の一、二、三        | 京都哲學會       |
| 國學院雜誌 三九の一、二、三       | 國學院大學       |
| 民俗學 四の一、二、五の一、二、三    | 民俗學會        |
| 經濟論叢 三六の一、二、三        | 京大經濟學會      |

史蹟名勝天然記念物 八の一、二、三

人類學雜誌 四七の一二、四八の一、二

中國營造學社彙報 三の三

歷史教育 七の一一、一二、一三

南方土俗 二の一

滿蒙地理歷史 二(二部)

史 學 一一の四

書誌學 一の一

郷土文化時報 一

史 淵 五

國史學 一四

國立北平圖書館々々 六の五

育丘學叢 一〇(二部)

社會學徒 七の三

皇 學 一の二

●會 員 動 靜

○轉 居

京都市淨土寺馬場町一一四

第八高等學校

○退 會

高橋 欣二氏

岡部 讓

會 報

同 保存協會

東京人類學會

中國營造學社

歷史教育研究會

南方土俗學會

陵南地歷史學會

三田史學會

書誌學社

相州鶴沼郷土研究同志會

九大史學會

國史學會

國立北平圖書館

育丘學會

社會學徒社

神宮皇學館

宮崎 市定氏

水川 温二氏

○改 一名

舊 久保田米齋 新 久保田滿明

○入 會

京大國史研究室

(右紹介者 井上智勇氏)

時野谷 勝氏